

支笏湖畔で勤務するようになり、毎日湖を眺めながら仕事をしていると、以前から気になる場所があったことを思い出しました。

それは十数年前、支笏湖の中でもお気に入りの場所の一つで、よくカナーや釣りを楽しんだ「米軍キャンプ場跡」です。

当時は湖畔まで車で降りることができたので、重いウッドのカナディアンカナーでも楽に湖面まで運ぶことができました。さらに、出会う人といったら釣り人がたまに通る掛かる程度なので、同伴の愛犬を自由に走り回らせても誰にも迷惑を掛けることもない、そんな静けさがとても好きでした。

縁があつて今度は支笏湖に仕事で来るようになり、そんな米軍キャンプ

場跡が今どうなっているのか、そして当時この湖畔にあった遊覧船の船揚げ場が今もあるのかを、いつか確かめたいと思っていたのでした。当時は春の観光シーズンが近づくと、ここに陸揚げされ

ていた遊覧船の化粧直しをする様子を毎年ニュースで見っていた記憶もよみがえりました。また、なぜ米軍キャンプ場跡というのか、その理由を知りたいと思ったのも、この場所が気になる理由でした。

気になる「米軍キャンプ場跡」

歴史物語るレール

た。

4月下旬、ようやく気になる現場へ行くチャンスがやって来ました。そこは、一時期水上バイクの喧噪（けんそう）が響いていた頃が、うそのように十数年前の静けさを取り戻していました。使われなくなった船揚げ場はそのままの形で残っていて、4本のレールが透き通った湖の中に一直線

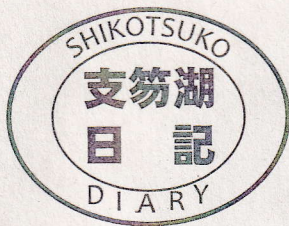
に延びていました。米軍キャンプ場跡の名前の由来は、ビジターセンターでスクラップしてあった千歳民報20

す。米軍キャンプ場跡のようになつて、これからは、いろいろなことに興味を抱くことがあると思いま

す。米軍キャンプ場跡のようになつて、これからは、いろいろなことに興味を抱くことがあると思いま



今も残る4本のレールが支笏湖の歴史を物語る



（自然公園財団支笏湖支部所長、木下宏）